

日本とのつながり

当国立公園は、ジャカルタ近郊に位置する為、日本とのつながりが強い国立公園のひとつです。例えば、2002年よりJICA（独立行政法人 国際協力機構）から青年海外協力隊が環境教育分野で派遣されており（現在、5代目）、ビジターセンターの展示物の充実化、登山道の整備計画、そして地元の小中学校での環境教育などの分野で活躍しています。

また、シャープインドネシア、ダイキン工業、大日本印刷、群馬サファリパーク、三菱商事などの日系企業によるCSR活動（社会貢献活動）の一端として、植林が行われています。当国立公園では、Adopsi Pohonというユニークな植林プログラムが実施されています。植林活動は、地域住民と共同で実施されており、植樹資金の一部は村落開発支援のために使われています。

さらに、パンランゴ山を採水地とする唯一のミネラルウォーター・プリスティン（PT Super Wahana Tehno 社）も、当国立公園の実施する環境教育に協力しています。

お問い合わせ

現在、チボダスの公園管理事務所に青年海外協力隊隊員が常駐しています。（2016年5月まで日本語でお気軽にお問合せください。

○平成25年度4次隊 環境教育
平野雄大（5代目）

Tel: 0263-512776（公園管理事務所代表）

Email: hiranouz@gmail.com（隊員直通 日本語可）

リーフレット作成担当

○原案

青年海外協力隊

吉田賢一（4代目）※任期終了

○内容更新

平野雄大（5代目）※現在常駐

本リーフレットは青年海外協力隊隊員が集めた情報に基づいていますが、宿泊費や交通事情は頻繁に変化します。予め、ご了承ください。

アクセス情報

クルマを利用する場合

ジャカルタから高速道路に入りボゴール方面へ。高速道路出口ガドグ（Gadog）を出てブンチャック峠方面へ向かいます。ブンチャック峠を越えて7,6キロ、アウトレットショップ「DSE」の先にある三叉路を右折し（国立公園の看板あり）、直進約3キロでチボダス観光地区の入場ゲートが見えてきます。入場料（乗用車 Rp. 8,000、入場料 Rp. 3,000）を支払います。そのまま直進すると、右手に公園管理事務所が見えてきます。

バスを利用する場合

ジャカルタのカンプン・ランブータン（Kampung Rambutan）バスターミナルでブンチャック峠を経由するバスに乗りし、チボダス（Cibodas）で下車します。料金は、Rp. 22,000です。下車後、チボダス行き黄色いミニバス（アンコット）に乗りし、終点で下車します（料金は、Rp. 3,000）。右手に公園管理事務所があります。



グヌン・グデ・パンランゴ国立公園

次の日曜日は、山へ行こう。
— ジャカルタからクルマで2時間の国立公園 —



公園概要

グヌン・グデ・パンランゴ国立公園は、1980年に設立されたインドネシアで最も歴史のある国立公園のひとつです。ジャカルタからわずか100キロの位置にありながら、広大な熱帯林を有し、国鳥であるジャワクマタカ、絶滅危惧種であるワウワウテナガザル、アカガエル、そしてエーデルワイスなどの貴重な動植物の生息地となっています。

また、この地域は、UNESCOのMAB計画（人間と生物圏計画）地域にも指定されており、国際的にも注目されている地域です。

公園管理事務所は、チアンジュール県チボダス（Cibodas）にあります。オランダ時代から避暑地として有名なチボダス・ブンチャック地域は、多くの観光客を惹きつけます。国立公園では、本格的な登山、滝までのハイキング、そしてバードウォッチングなどを楽しむことができます。



また、当国立公園は周辺小中学校での環境教育や荒地での植林活動も行っています。環境教育にはJICAより派遣されている青年海外協力隊が関わり、また、植林活動には多くの日系企業が参加しています。

インドネシアの貴重な自然環境を守る為、企業、国際機関、地域住民の方たちとの協力及び連携を大切にしています。

登山について

当国立公園は、グデ山（2,958メートル）とパンランゴ山（3,019メートル）を有します。標高2,750メートル付近に広がるエーデルワイスや満天の星空等、見どころ満載の登山を楽しむことができます。2009年9月より、安全確保及びトレイル保護の為、登山者はガイドを伴うことが義務付けられています。また、入山には、入山許可書（SIMAKSI）が必要となります。許可書の申請する際に、パスポートやKITAS等の身分証明書のコピーが必要となります。

なお、1月～3月、8月は天候不順、植生回復の為、入山が禁止されています。また、近年では乾季の期間が長引くことがあり、山火事防止の為、閉山期間が延長される場合もあります。



入山希望のお客様は、以下の注意事項を参照の上、登山をお楽しみください。

（1）登山費用（入山許可証、保険等込）
公園管理事務所です必ずお支払いください。身分証明書（KITAS又はPASSPORT）のコピーを提出する必要があります。料金は、お一人様Rp 157.500（土日祝祭日は、Rp 232.500）です。

※2014年7月1日より、公園利用料が改定されました。

（2）ガイド
外国人のお客様は、ガイドを伴うことが必須となります。ガイドは、公園管理事務所です斡旋することが可能です。料金は、平均してRp 400.000からRp 600.000となります。

平均Rp 500.000にてポーターをつけることも可能です。

（3）装備
当国立公園には、山小屋等の宿泊施設はありません。登山者は、テントや食料をすべて持参する必要があります。また、山頂付近で幕営する場合、最低気温が0度程度まで下がる日もあります。十分な食料や防寒対策を講じながら、安全第一で登山をお楽しみください。

滝への散策について

チボダス（Cibodas）は、スンダ語で白い水という意味です。地名の通り、清流が多くの観光客を惹きつけます。観光地のひとつが、チブレウムの滝です。

チブレウムの滝への散策には、特別な許可は必要ありません。公園の入り口で入園料Rp 156.000（土日祝祭日は、Rp 231.000）をお支払いください。

滝までの道は、石畳となっており、普通の運動靴で歩行することが可能です。滝までは片道2,8キロで、所要時間は片道約1時間30分程度です。

途中には、森の王様と呼ばれるラサマラの木、テラガビル（青い沼）、木道が整備された湿地帯もあります。終点のチブレウムの滝周辺でシートを広げれば、滝を眺めながらお昼を摂ることもできます。トレッキングルートには売店などはありませんので、水や食べ物は各自でご用意ください。なお、チブレウムの滝までの散策は通年オープンしています。

*Take nothing but photographs
Leave nothing but footprint*



チブレウムの滝
雨季は水量が増加し、迫力満点の滝となる。一方、乾季は水量が低下する為、滝に入って水遊びをする観光客で賑わう。